

2018たかしま市民音楽祭「響」

3月11日（日）、高島市民会館で開催されました。
今年のテーマは「心にひびけ 春のハーモニー」で、来場者はもちろん出演者の皆さんも音楽を心から楽しまれていました。



主な内容

- 特集1 平成30年度 施政方針 ②
- 特集2 地域おこし協力隊、隊員報告 ⑥
- ・たかしまの初夏はスポーツの季節!! ⑨
- ・3月からゴミ処理方法が変わりました! ⑭

★今月号に掲載している課名などは編集時のものです。4月1日以降、課名や電話番号が変更になる場合がありますのでご了承ください。

高島市公式

フェイスブック **Facebook** と インスタグラム **Instagram** で情報発信中!

こちらの名前でそれぞれ検索してご登録をお願いします。
・Facebook 「あっと高島」 ・Instagram 「takashima city #たかP写真館」



イメージキャラクター
「たかP」

無料アプリ「マチイロ」で広報たかしまが読めます!

「広報たかしま」はスマートフォンアプリ「マチイロ」でも配信しています。
スマートフォン等から当アプリをダウンロードしてお使いください。

マチイロ

検索

※アプリのダウンロードは無料ですが、通信費は利用者のご負担になります。



住宅取得費用などの補助



伝統漁法「やな漁」

平成30年度 施政方針

平成30年2月26日に開会した高島市議会3月定例会において、福井市長が示した施政方針の概要をお知らせします。

おひめ

平成30年度の施政方針を述べさせていただきます。

昨年2月に2期目の市長の職をお預かりし、早や1年が過ぎました。これまでから申し上げてきたように、平成29年度は、これからの10年間の高島のまちづくりの指針となります第2次高島市総合計画の初年度にあたり、また平成27年度に策定しました高島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間であります5年間のちょうど折り返し点にあたる年でありました。

人口減少時代の中で持続可能なまちづくりにつなげるため、言い換えれば、この高島の地の新たな歴史を刻む大変重要な時でありましたことから、私自身これまでの4年間の改革の流れを止めることなく、将来に責任を持つ覚悟で、かつスピード感を持って、市政運営に努めてきました。

平成30年度におきましても、これまでの施策をより一層発展させながら、そしてすべての市民の皆様が、その変革を実感していただける市政運営に取り組んでいく所

ピックランドのリニューアル事業」により、施設の魅力アップを図ります。

次に、商工観光政策では、『高島市まち・ひと・しごと創生総合戦略』に位置付けられている「特産品海外販売戦略事業」や「実践型地域雇用創造事業」を引き続き実施し、特に「特産品海外販売戦略事業」では、新たに水産加工品による海外展開を戦略的に実施していきます。

また、国の産業振興政策の動向を踏まえ、市内企業の生産性や競争力向上のための投資を後押しする施策の展開も図っていきたくと考えています。

子育て・教育

子育て支援施策では、経済的な負担軽減を図るため、ふるさと納税を活用させていただきながら、第2子以降の保育料の無料化や中学生までの医療費の完全無料化を継続します。

また、結婚を機に市内に居住していたり、住宅取得費用、引っ越し費用あるいは家賃などの補助を行う「新婚生活支援事業」を新たに制度創設することとして

存であります。

それでは、平成30年度の施政の主な取り組み、方向性について、第2次高島市総合計画の6つの分野ごとに、主な政策についてご説明します。

産業・経済

まず、農業政策におきましては、平成30年度より国における米の生産調整制度が廃止されますが、生産者の所得安定を図るため、また過剰生産による米価の下落を避けるため、高島市農業再生協議会や県と連携しまして、生産目標数量を配分するなど適切に対応していきます。

また、「たかしま野菜の生産拡大事業」につきましては、継続して推進しますとともに、民間事業者により計画されております鴨川地先での会員制リゾートホテルや旧しんあさひ風車村におけるグランピング施設での地元農産物の供給、さらには観光客の増加に伴います各道の駅農産物直売所などへの新鮮野菜



メタセコイア並木

います。

学校教育では、小中一貫教育や企業版ふるさと納税を活用したICT機器の整備を進め、高島市学力向上スタンダード8に基づき、学力向上を図ります。

また、将来を担う子どもたちを地域全体で支え、地域づくりや地域活性化にもつなげていくため、平成29年度に高島学園でモデル的に開始しました地域学校協働活動を全市に広げ、学校、保護者の皆様や地域の方々との連携を深め、地域に開かれた信頼される学校づくりを進めていきたいと考えています。

健康・福祉

スポーツによる健康づくりでは、長年懸案となっていました今津総合運動公園に隣接する市有地につきましては、地元の皆様との合意の上で、一層の地域活性化やスポーツ振興を図るため、グラウンドの増設を行いますとともに、災害時における避難場所としても利用できるよう、「かまどベンチ」や「マンホールトイレ」などの防災機能を兼ね備えた多目的グラウンドとして、整備させていただきました。

の出荷拡大を目指します。

そして、食の安全・安心の観点から、新たに、農業生産工程管理（GAP）につきましても、JAをはじめとする農業関係団体などと連携し、取り組んでいきます。

また、SNSを中心として高島の優れた景観などが情報発信されていますが、マキノメタセコイア並木などへの観光客の増加を一つのビジネスチャンスととらえ、その拠点施設であります「農業公園

ます。

また、高齢化率も33%を超え、今後、団塊世代の方々が、医療や福祉サービスへの依存度が高まる後期高齢者へと移行されていくことから、健康維持への保健施策の展開とともに福祉施策による重篤化予防や支援施策がますます重要となってきます。

このため、地域共生社会の実現に向けた取り組みの推進といたしまして、地域全体が連携し、住民の主体的な支えあいを育み、地域を基盤とする包括的な支援体制づくりに努めていきます。

同時に、平成29年度に策定しました『高島市障がい者計画・第5

今津総合運動公園周辺



期障がい福祉計画・第1期障がい児福祉計画」や「高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画」などで掲げた具体的な施策の展開に努めていきますとともに、市内の介護人材の確保につまましては、喫緊の課題でありますことから、国・県の支援制度に加え、さらに市独自で補う追加支援の実施によりまして、福祉サービスの安定的な継続が図れるよう取り組んでいきます。

なお、本年4月からは、「国民健康保険事業」が滋賀県と各市町が一体となって、事業運営を図る制度改正が施行され、市におきましても資金運用の負担軽減が期待されるなど、より一層、健康増進事業の強化に努めていきます。

高島市民病院は、湖西地域の中核病院として、また救急医療、災害医療の拠点病院として、その役割と責任はますます重要になります。平成30年度は、診療報酬と介護報酬の同時改定年であること、また「医療計画」と「介護保険事業計画」のスタートも重なることから、地域の福祉・医療機関との連携強化、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みが、今後ますます重要になってきます。



利便性が向上するJR新旭駅

必要な要望などを行っていききたいと考えています。

一方、市道の整備につつましては、橋りよりの改修や消雪施設の整備も含め、計画的に必要な整備を進めていきます。

また、JR湖西線の利便性向上については、JR新旭駅のバリアフリー化いわゆるエレベーターの設置やJRMキョノ駅のバリアフリートイレの新設などに取り組むこととしています。

次に、「上下水道事業」では、施設の老朽化に伴う断水などが頻発し、市民生活に大きな影響を及ぼしている現状を踏まえ、将来に

このような中で、平成28年に策定しました「新病院改革プラン」に基づき、経営効率の一層の向上を図ることにより、持続可能な病院経営を目指すとともに、平成30年度から新たに指定を指している地域医療支援病院として各種事業に鋭意取り組み、地域完結型医療サービスの提供を目指します。

4 暮らし・文化

移住定住相談窓口では、移住定住相談と空き家相談を兼ねたコンシェルジュをさらに1人増員し、相談体制の充実強化を図り、空き家の掘り起し、活用による移住定住を進めていきます。

また、環境センターの運営につ



民間業者によるごみの搬出

わたり安定的なサービスが提供できるよう、中長期的な視点に立った計画的な施設更新と経営基盤の強化を図ります。

6 行政経営

人口一人当たりの延べ床面積が他の自治体と比較して非常に多い状況にあります各種公共施設につきましては、今後30年間で50%削減を目標として、各施設の再編を着実に推進する必要がありますことから、まずは平成36年度までを計画期間とした「高島市公共施設再編計画」により、公共施設の着実な再編に取り組めます。

また、長年の課題でありました

きましては、本年3月より、一般廃棄物の処理を県外の民間事業者に委託を行うところでありましたが、後継処理施設につつましては、平成38年4月の供用開始を目前に、平成30年度は、今後の基本的な考え方や整備方針をお示しするための基本構想の策定ならびに用地選定の着手にとりかかることとしていきます。

5 生活基盤

市民の皆様の暮らしや地域経済を支える基盤であります国道161号・303号・367号や主要な県道の整備につつましては、国・県ともしっかりと連携を図りながら、更なる整備促進に向け



国道161号の整備

「本庁舎・支所庁舎整備事業」につつましては、昨年度から本庁舎増築工事に着手し、その後、既存本庁舎の改修工事を行い、平成31年度には統合庁舎としての供用開始を予定しているところです。

なお、支所庁舎の整備につつましては、平成30年度は、高島支所の改修工事を計画しているところであります。

おわりに

これまでの5年間の取り組みを継続し、さらなる飛躍を目指し、しっかりと取り組んでいく所存であります。皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。平成30年度予算編成に係ります施政方針とさせていただきます。

施政方針の全文は、市のホームページに掲載しています。

二次コードを下記QRコードから読み取ります。



問 秘書課

(25) 8000



好きだから、やってきた。

平成27年度から活動してくれていた第1期地域おこし協力隊の2人が、平成30年3月31日をもって任期を終え「卒隊」しました。委嘱期間満了までの毎日、地域で精いっぱい活動を行いました。彼らの3年間の活動を振り返り、皆さんにお知らせします。

市民協働課 ☎(25) 8526



集落

「太田効果やな！」集落の中で移住の当初にブームになった言葉である。

私が入った野口区は、区内行事も活発。地域活動として炭を焼き、外部人材の受け入れも積極的なのだが、いわゆる限界集落とよばれている。そんな所に他所から来た若い娘が一人入って何が変わるのか。私自身も疑問だった。しかし、私が『集落の一員となること』で大きな変化があった。簡単に言えば、個人が集落を、集落が個人を信頼できるかという話だ。

集落における一人の存在の大きさというのは計り知れない。集落の人が変わらずに居てくれることがどれほど心強いのか。私は集落の一員として、行事やサロンに参加し、炭も焼いた。「太田効果」初めは物珍しさだったのだろうが、今となっては安心と定着を指す言葉となっている。

地域づくり

地域ってどこだろう？市や町村、それとも所属するコミュニティ？地域づくりに携わっている人ならば一度は考えること。どんな範囲であっても「人の暮らし」を意識することは共通しているのではないかな。

時にはアンケート調査で、時にはボランティアとして、地図上では見えない人の暮らしに触れてきた。お隣に住んでいたとしても、年齢や活動範囲、はたまた宗教でも感じ方はさまざま。一方向から見ただけでは地域づくりはできないと学んだ3年間となった。

そして、「住民が自分たちの暮らしを考える」ことも大事だと思うようになった。伝統や習慣、何を守って何を変えていくのか。変わること、変わらないことで影響を受けるのは住民なのだから。試行錯誤を半永久的に続けるのが地域づくり。辛いことではなく、楽しいこととして受け入れられる地域づくりを今後していきたいものだ。



好きだからやってきた

私は何かの大きな事業を始動させることはできない。ただ、目に見える・手の届く範囲の人のために考えることはできる。サロンや区内の広報も好きだからやってきた。

誰が何をやる、は適材適所。上から大きく見渡すのはできる人に任せよう。その代わりに私は、下からじんわりと。皆さんと一緒に。これからもよろしくお願いします。

プロジェクト

キャリア教育PJのコーディネート

市が進める地域連携による高校生キャリアデザイン事業のコーディネーターとして授業開発や普及を担当者と二人三脚で進めてきました。

高島市から、激変する社会を強くしなやかに生き抜く人材を世界に送り出す。しかも高島にしかない魅力的なキャリア教育で。願わくば、世界で力をつけた卒業生が、高島市にブーメランのように帰ってくる。魅力的な教育を求め全国から若い世代が集まってくる。この事業にはそんな夢を描いて関わってきました。

先進地の島根では地域おこしの主流である教育振興。今では少しずつこの理念に共感する人が増えてきましたが、高島の教育環境は楽観視できません。小中学校から高校を含む魅力化が必要です。学校の外に学びの場を創り出すことにも挑戦したい。これからも、地域・学校・行政の真ん中でこの事業を育てていきたいと思っています。



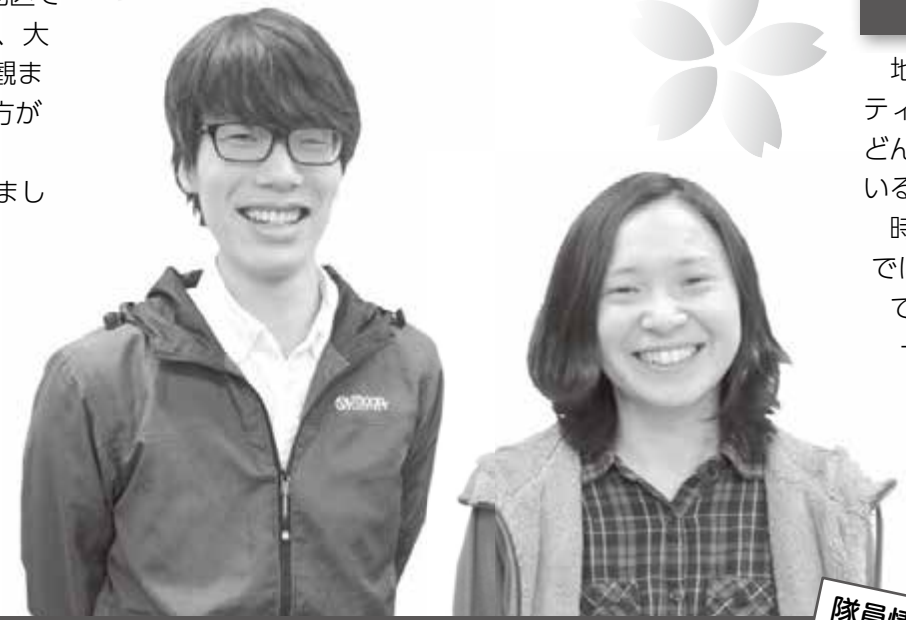
集落活動

移住から2年半お世話になっている竜地区では、自治会理事に始まり、福祉推進委員、大溝祭の曳山保存会に神輿昇きなどを経験させていただきました。昨年からは大溝水辺景観まちづくり協議会の委員にも参画させていただき、協力するより勉強させていただくことが多かったように思います。

特に自分の住む集落を振り返ると、竜地区はこの3年間、常に変革に取り組んできました。高齢化率の高い集落でも10年20年先を見て試行錯誤をする。対話する場を設け、お互い様の精神をもって暗くならず、楽しく前に進む。私が何かをした訳ではないです。太田隊員の言葉を借りるなら「変わる努力と変わらない勇気」の実践が竜地区の人々にはあります。そんな姿が、私に（意地でも）定住するという決断を呼び起こしました。

好きだからやってきた

今の日本社会を車だと思ってみてください。いろいろなところにガタがきています。今まで通り走れないことが増えてきました。車なら修理工場に預けて修理できる。ところがこの車は走ったままで部品を交換したり、燃料を入れるなどアクロバティックな作業が必要です。社会は暮らしがあるから止まらない。この作業は危険だし難しい。でも誰かがやらないといけな。そんなときに、ニコニコして俺やりますよと言えるのは親の教育の賜物で、ワクワクしてしまう自分がある。結局、好きなんです。お金や安定よりこういうことが。



原 周^{しゅうすけ} 隊員
高島市勝野（竜）で活動
平成27年8月～平成30年3月

太田 彩^{あや} 隊員
マキノ町野口で活動
平成27年6月～平成30年3月

隊員情報！

担当者インタビュー

地域おこし協力隊の担当として2年間、一緒にいろいろなことを学びました。勉強熱心で地域の人々をこよなく愛する彼らの、熱い思いについていくことに、「必死」というところが本音だったかもしれせん。関わりすぎず、必要などときには相談してもらえという距離を保っていたつもりですが、どれだけ信頼できる担当者だったかは、彼らに直接聞いてみてください。2人が今後も市内に定住し、活躍してくれることが担当者としては一番の喜びです。また現在、第2期地域おこし協力隊の活動開始に向けて、準備を行っています。新しい協力隊についても、しっかりフォローしていきたいと思っています。

市民協働課 加藤(まこ)

